

ここが問題！リニア新幹線

2016. 6. 1発行 NO. 44 リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会 web-asao.jp/hp/linear

5月20日、工事認可取り消しを求めて、東京地裁にストップ・リニア！訴訟提起 リニア新幹線について、国民的理解と国会での見直し論議の契機にしよう

リニア新幹線沿線住民ネットワークは昨年秋、2014年10月17日の国交大臣による「中央新幹線工事実施計画（その1）」の承認処分取消しをを求める行政訴訟の方針を決定し、以降行政不服審査法に基づく不服審査請求者5千人余りから、原告を募集してきた。最終的に738人が応募し、弁護団も20人を超え訴訟に向けての体制は整った。

そして5月20日午後、国を相手取って前述の工事認可の取消しを求める「ストップ・リニア！訴訟」を東京地方裁判



所に起こした。

右上の写真にあるように、弁護団と沿線住民を中心とする原告団約30名は午後1時20分、多くの報道陣のカメラが待ち構える前を行進し、提訴手続きのため東京地裁に入った。

この日は訴状と原告名簿を裁判所事務局に提出しただけで審理は行われなかった。弁護団の共同代表である高木輝雄（愛知）、関島保雄（東京）、中島嘉尚（長野）の3弁護士と、原告団長の沿線ネット・川村晃生共同代表らが提訴の後司法記者クラブで記者会見した。

この中で川村氏は提訴に至った経過と裁判の意義について次のように述べた。「国交大臣に対する異議申し立てについて1年半たっても国交省は鋭意審査中を繰り返すだけで、審査を放棄している。このままではJR東海が工事を進めてしまうという危機感から提訴に踏み切った。この訴訟で認可は誤りであり、アセスの説明も極めて不十分であることを主張し、工事認可の取消しを求める。日本のあり方を変える裁判であると位置づけている」。また、関島弁護士は「リニア工事が行なわれれば南アルプスの自然環境への影響は深刻だ。残土処理や地下水、ウラン鉱床通過など工事や供用時の対策の不備を問いたい」と述べ、中島弁護士は「熊本地震はリニアの安全性を考える上で重要な事実であり、ガイドウェイが断層地震でゆがんだり、トンネルが壊れたりすれば、時速500キロで走るリニアはひとたまりもない」と述べ、安全対策・地震対策の欠陥が争点になるという考えを述べた。

東海道新幹線騒音訴訟を経験した高木弁護士は、「評価書を見て沿線の騒音・振動予想値が環境基準値を超えており驚いた」と述べ、沿線住民の生活への影響について工事計画の欠陥を問う姿勢を示した。会見場は中央メディアだけでなく地方紙やフリーの記者で満員となり、訴状の内容について熱心な質問が飛んだ。午後3時からは参議院議員会館で院内集会が行なわれ67人が参加した。



地裁前の横断幕が目を引きいた

運動と訴訟とをクルマの両輪に



午後3時から参議院議員会館で行われた「ストップ・リニア！訴訟スタート集会」には、原告団や弁護団役員のほか、沿線各地域から多くの原告を含む67人が集まり、日刊紙のほかフリーの記者も多数取材に訪れた。国会会期中で議員本人の出席はなかったが、日本共産党の島津幸広、本村伸子、辰巳孝太郎、社民党の福島みずほ各議員の秘書が代理出席した。初めに川村原告団長が訴訟について「運動と裁判をクルマの両輪として活動していく」という決意を述べ、弁護団の関島共同代表や事務局長の横山聡氏、事務局次長の和泉貴士氏、山下 潤、金枝真佐尋、岡本浩明氏ら弁護士が次々にマイクを握り、弁護団に加わったきっかけや勝訴に向けての決意を表明した。

リニア鉄道を導入する国はどこにも無い～橋山禮治郎氏が深刻な失敗のツケを指摘

集会に駆けつけていただいた交通政策の専門家で『必要カリニア新幹線』などの著者、千葉商科大学大学院客員教授の橋山禮治郎氏は次のように述べた。

「率直に言って、リニアほどひどいプロジェクトは無い。JR東海はこれから人口も減るし経済成長も無いのにリニアをやろうとしている。技術立国として最大のものだからやるのだと。今は世界のどこでもリニアはやらない。アメリカはとっくにあきらめたし、ドイツは国会からノーを突きつけられ断念した。中国は万博のために急いで買ったが大損して二度とやらない。リニアの輸出市場はどこにも無い。研究者の中にはリニア推進に賛成したりニアムラの人もいたが、今賛成する学者はほとんどいない。無理だと分かったからだ。いまだに分かっていないのは国会議員だ。リニアが失敗したら日本の鉄道は大変苦しい状態になる。国もダメな計画に何も口を挟まない。国民が黙っていたら日本全体がおかしくなる。皆さんの熱情で多くの方々が覚醒し、JR東海や国の考えが甘かったという結果になるまで運動で盛り上げていただきたい。それが私の切なる願いです」。

提訴日夕方、品川駅のJR東海東京本社前で街頭宣伝活動を展開

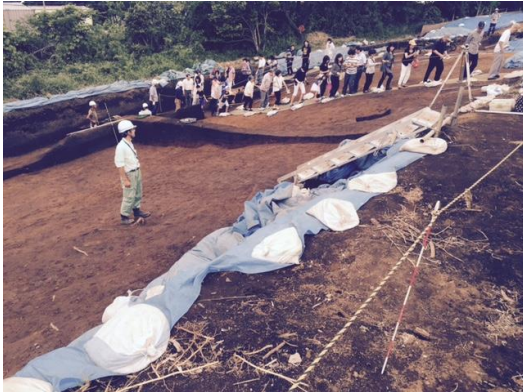
私たち東京・神奈川連絡会は相模原連絡会と共同して、院内集会後の午後6時から約1時間、JR品川駅港南口デッキで、提訴したことを報告しリニア新幹線の問題点を訴える街頭宣伝活動を行った。東京・神奈川連絡会の天野、矢沢の両共同代表や相模原連絡会の浅賀きみ江代表がリレートークの形でマイクを握り、リニア・市民ネット大阪の春日直樹代表も飛び入り参加し「リニアに関心を持って下さい」と帰宅を急ぐ人たちに呼びかけた。



麻生区東百合ヶ丘の立坑予定地で縄文時代の遺跡が見つかる

～調査終われば取り崩しに「リニア工事で貴重な歴史が消し去られる」～

現地見学会に参加して実感



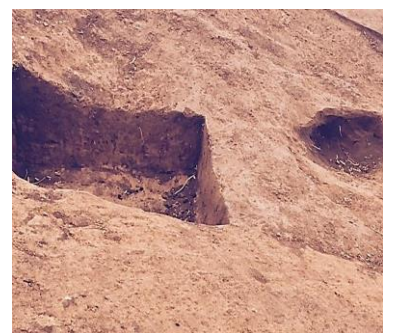
5月28日午後、川崎市教育委員会が主催して麻生区東百合ヶ丘3丁目の「東百合ヶ丘遺跡」の発掘調査現地見学会が行なわれ、周辺住民を含む約80人の市民が参加しました。現場はリニア新幹線の立坑（非常口）建設予定地で、JR東海の要請で市教委が試掘したところ土器片などが見つかり、これまでに約500個の土器片や狩猟用の矢じりが発見され見学会で公開されました。第一次調査は6月3日迄行われ、その後、さらに掘り下げて調査をする予定です。調査費用はJR東海が負担。

市教委の専門職員の説明によると、現場の標高は100mで、東側に隣接する宮前区潮見台は、その名が示すように、天気の良い日には横浜の海が見えるほど見晴らしが良い場所だったそうです。調査箇所は台地の高いところから尻手・黒川道路に下る南斜面の広さ600㎡の範囲で、今から9000～7000年前の縄文時代早期の土器や、イノシシなどの獣をとらえる陥し穴も発掘された。縄文人の集落が近くにあったことは間違いないようです。さらに、500年前の戦国時代に造られた薬研堀りの溝も見つかり、北条氏と対立する部族の山城の一部である可能性もあるということです。

調査場所には、昭和30年代に日本合成ゴム（現JSR）研究所が造られ、その後移転により研究所は取り壊されましたが、その際土が掘り返されたものの、文化財保護法に罰則が無く調査は行われませんでした。リニアの事業認可が決まった2011年後に大成建設とスーパーいなげやが跡地を取得し、大成が買い取った土地にリニアの立坑が建設されることになり、現在はJR東海の管理地になっています。

この日は家族連れ参加者も目立ち、子どもたちは出土した土器片を手にとって興味深そうに見つめていました。これを見た参加者の「地域の貴重な遺跡を保存して後世に伝えることはできないか」という質問に対し、市教委の担当者は「所有権が優先するので、その意向を無視して保存することはできない」と説明しました。これからも調査は行われるとはいえ、土器片などの遺物を回収すれば、いずれリニア工事が始まり、台地の全てが尻手黒川道路と同じ低さまで削り取られることとなります。また、市教委によると、同じく立坑予定地とその周辺にはさらに規模の大きな遺跡が埋まっているということです。リニア工事は大自然や生活環境を壊すだけでなく、市民にとって貴重な歴史遺産も根こそぎ消えてしまうことを強く感じました。一部でもいいから残すべきだという声があったのも当然です。

（右写真＝上から見学会に多数参加、出土遺物、陥し穴、発掘残土）



ストップ・リニア！訴訟、川崎でも記者会見

5月20日午後、東京・神奈川連絡会は川崎市政記者クラブで、ストップ・リニア！訴訟の提訴について記者会見を行いました。会からは矢沢、山本両共同代表のほか、田中（光）さん、松岡さん、潮さんが出席し、当日東京地裁に提訴したことを報告し、JR東海はリニア計画を白紙に戻して再検討するよう表明しました。川崎と町田両連絡会が募集した原告数は147人で、神奈川県内では211人が原告になっています。会見記事は、朝日・読売・東京・神奈川各紙の翌日朝刊に掲載されました。

第22回公害、健康、まちづくりフェスタ参加



展示ブースと山本さん

初夏の晴天に恵まれた5月21日（土）午前10時から、JR南武線武蔵溝ノ口駅前デッキで、第22回「公害・環境、健康、まちづくりフェスタ」が開かれました。今回も、各分野で活動続ける60の団体がブースを設けてそれぞれの活動の紹介展示や医療・法律相談などを行い、市民に対応しました。また、ステージではコーラスやフラメンコ、沖縄のエイサーなどのパフォーマンスがあり、デッキ中央では、日ごろ溝ノ口駅構内で練習をし、今やメジャー級の人気者になった若者グループの

ブレイクダンスが披露され取り囲んだ市民から喝采を浴びました。

リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会として、今年は4回目のブース展示を行い、川崎市内のリニアルートと5か所の立坑位置を示す地図や、リニアの工事残土や地下水への影響などの問題点を写真入りで紹介する資料を掲示し、山本太三雄、矢沢美也 両共同代表が足を止めた市民に説明しました。また、リニアの横断幕を一手に引き受けている山本マチ子さんは、自宅庭に咲いた矢車草をチラシに沿って市民に手渡し、リニアへ関心を持つよう訴えました。

また、フェスタの中で、天野捷一共同代表がステージでリニア新幹線の工事残土の処分先が不明であり、市内北部を100万台もの工事車両が走行すれば気管支ぜんそく患者がさらに増えること、新横浜の東海道新幹線の「のぞみ」停車本数の7割がリニアに移行することで市民の交通利便性は低下するなど、リニアは川崎市民にとって何のメリットも無いことを説明し、リニア工事中止に向けた活動への支援・協力を訴えました。



矢沢さんが来場者にリニアの川崎市内ルートなどを説明

私たちのリニアブースに足を止める市民の数は昨年よりも増え、質問の中味も次第に具体的になっていて、前日に「ストップ・リニア！訴訟」が報道されたこともあり、リニアに対する関心も徐々に高まっていることを実感しました。なお会からは上記4人の他、安藤八重子さんが参加しました。

《6月の活動予定～参加ください》

- 6月15日（水） 訴状・訴訟ニュース発送作業
午後1時～4時 多摩市民館7F印刷室
- 6月21日（火） 定例駅頭行動
午後4時～5時 溝の口駅前デッキ
- 6月25日（土） 第57回定例会
午後6時～多摩市民館7F会議室

ここが問題！リニア新幹線ニュース NO. 44
発行：リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会
天野捷一（中原・高津）090-3910-8173
山本太三雄（宮前）090-8775-1879
矢沢美也（麻生・多摩）090-6108-6568